

中田の前に流れ出る、廣瀬川名取川も、中田と長町の間にて落合、夫より末の松山の下へ落て、東

海に入といふ。

〔古今和歌集十三〕題玄らず

忠岑
陸奥にありといふなる名取川なき名とりては苦しかりけり

〔陸西遊行囊抄七〕細谷川 備前備中堺也、吉備ノ中山ノ麓ヲ流ル、水上ハ中山也、小流也、

〔古今和歌集二十〕妹瀬川 細谷川 まがねふくきびの中山おびにせる細谷川の音のさやけさ

此歌は承和のおほむべのきびの國の歌、

〔蓮歩色葉集伊〕妹瀬川 細州

〔續古今和歌集十二〕題玄らず

身の成む淵瀬もしらす妹背河おり立ぬべき心ちのみして

〔東遊雜記八〕最上川は、世に早川の大河と沙汰せる事ながらも、みなもと遠からず、清水清川及び此所迄の流を見て、諸州の大川にくらべて予が考を記す、第一山城國淀川、第二武州刀禰川、第三は土州四万十川、第四富士川、天龍川、最上川、第五石州よしの川、九州筑後川、阿波の相川なるべし、いまだ予が見ざる所の川に、越後の信濃川、當國御物川、奥州の北上川、阿武隈川の末なり、奥州の川は頓て見る事なれば、後卷に記すべし予地理の道を好む事ひさし、玄かれどもいまだ委しからす、見る人信すべからず、

〔倭訓栞前編六〕かは 刀禰川、吉野川筑後川を三大河。とす、俗に坂東太郎、四國次郎、筑紫三郎といへり、

〔利根川圖志總論〕回國雜記標注利根川條に、本朝一の大河なればとて坂東太郎といふ、これに次ぎたるを四國次郎、阿波の小鳴戸へ筑紫三郎筑後川これを日本三大河といへりと見ゆ、又四神

紀伊國
妹瀬川

備前國
細谷川

大川

參議簾